

レックスマーク、Kofax の買収が完了した旨を発表 また、エンタープライズ・ソフトウェア部門の新トップ人事を公表

米国ケンタッキー州レキシントン、2015年5月21日

- レックスマーク・インターナショナル・インク (Lexmark International, Inc) は本日、米国企業 Kofax 社 (Kofax Limited) の買収を完了した旨をここに発表致します。買収は、株式交換方式ではなく現金で行われ、買収額は約 10 億ドル (買収価格は 1 株当たり 11 ドル) となりました。今回の Kofax 社買収により、レックスマークのエンタープライズ・ソフトウェア部門の収益は約倍増 (年率ベースで約 7 億ドルへ) が見込まれます。
- また、これまでレックスマークのエンタープライズ・ソフトウェア部門を率いてきたスコット・クーンが 2015 年 7 月末を以って退職する意向を固めたことを、ここに報告します。スコット・クーンは、レックスマークがパーセプティブ・ソフトウェア社 (Perceptive Software) を買収した 2010 年以降、エンタープライズ・ソフトウェア部門事業本部長として事業運営に手腕を発揮し、同部門を成功に導いてまいりました。
- スコット・クーンがエンタープライズ・ソフトウェア部門事業本部長の職にあった期間に、エンタープライズ・ソフトウェア部門は、エンタープライズ・コンテンツ・マネジメント・ソフトウェアからプロセス管理、キャプチャ、そして検索技術にまで事業範囲を広げ、業界に特化したソフトウェア・ソリューションの提供を大幅に強化してまいりました。また、スコット・クーンの指揮の下、エンタープライズ・ソフトウェア部門は、本業の成長拡大を狙った投資や企業買収を通じて、国際的な地歩を広げることができました。退任の意向を明らかにしたスコット・クーンですが、退職日を迎えるまでは新体制への円滑な移行をアシストしていく予定です。
- スコット・クーンが退職の意向を明らかにしたことから、Kofax 社の最高経営責任者 (CEO) であるレイノルズ・C・ビッシュが、スコット・クーンの後任としてエンタープライズ・ソフトウェア部門事業本部長の職に就きます。この新人事は、即日発効となります。また、レイノルズ・C・ビッシュはあわせて、レックスマークの副社長に就任し、会長兼 CEO であるポール・ルークが直属の上司となります。エンタープライズ・ソフトウェア業界における経験が 20 年を超えるレイノルズ・C・ビッシュは、2007 年からトップとしてコファックスを指揮し、同社を成功に導いてきました。コファックス以前は、共同設立したキャプティブ・ソフトウェア・コーポレーション (Captiva Software Corporation) において社長兼 CEO の職——1989 年から EMC コーポレーションに買収される 2005 年まで——にありました。

今回の新人事に関する会長兼 CEO のコメント

「エンタープライズ・ソフトウェア業界におけるスコット・クーンのカリヤは、まさに非凡の一言につきます。スコットは、設立まもない規模の小さい新興企業であったパーセプティブ・ソフトウェア社を、カンザスシティにおいて最も活気溢れる企業のひとつに、そして、業界有数のエンタープライズ・コンテンツ・ソフトウェアのプロバイダーの一社に成長させることに成功しました。レックスマークは、2010 年にこのパーセプティブ・ソフトウェア社を買収したわけですが、この買収を契機にレックスマークはまさしく変化を遂げました。パーセプティブ・ソフトウェア社の買収は、レックスマークが事業を拡大し、組織化・体系化されていないプリントおよびデジタル情報管理という分野における第一人者としての地位を固める上で大きな原動力となりました。このように語るレックスマークの会長兼 CEO であるポール・ルークは、続けて次のように述べています。「思慮に富んだ洞察力のあるスコットの統率力は、レックスマークのエンタープライズ・ソフトウェア部門の発展・進化を支える大きな要因でした。テクノロジーに対するスコットの熱い思い、そして、才能豊かな人材を引き付け、奥の深い多様性に富んだチームを育成し、優秀な社員を手元に引き止めることへの情熱は、スコットのキャリアを語る上で外すことができない特長と言えるでしょう。スコットの退職後の人生に幸多きことを心よりお祈り申し上げます」。

さらに、ポール・ルークは、以下のように言葉を繋いでいます。「スコットの後任となるレイノルドは、確かな統率力と確固たる実績の持ち主です。私たちは、レイノルズ率いるエンタープライズ・ソフトウェア部門の将来に対して、大きな自信を持っています。グローバル・ビジネ

スの構築・展開におけるレイノルズの豊富な経験を踏まえると、レックスマークのエンタープライズ・ソフトウェア事業は今後、より一層の成長・拡大が見込まれます」。

レックスマークについて

レックスマーク (NYSE: LXX) は、情報サイロや分断されたプロセスの非効率性を排除し、必要な時に必要な情報へのアクセスを可能にするエンタープライズ向けソフトウェアやハードウェア、サービスの開発・提供に従事する企業です。レックスマークが切り開く可能性については、ウェブサイト (アドレス: www.Lexmark.com) をご参照ください。

レックスマーク、レックスマークのロゴ、そして、キャッチフレーズ "Open the possibilities" (可能性を開く) は、レックスマーク・インターナショナル・インクの商標であり、米国および/またはその他の国・地域で登録されています。他の全ての商標は、それぞれの所有者の財産です。

1995 年証券民事訴訟改革法の「セーフ・ハーバー」規定: 本リリースに記載されている、過去の事実にあたる記述は、将来の見通しに関する情報です。かかる情報には、リスクや不確実性が内在しています。そうしたリスクや不確実性ゆえに、レックスマークの実際の決算報告または業績は、将来見通しの中で明示または暗示されている結果とは大きく異なる場合があります。かかる将来見通しに関する記述に影響を及ぼし得る要因の中には、以下の点が含まれますが、これらに限定されるものではありません: 外国為替レートの変動; 新たに買収した事業と既存事業の融合の失敗; 世界経済の不安定さに関連した経済の先行き不透明感の持続; 徹底したソリューションを提供できる存在になるという自社の戦略を遂行することができないこと; 消費減退に伴う供給減少; リストラクチャリングに要するコストや費用および節減効果に関する想定が変わる可能性; 市場における新製品の受容度; ライバル企業やリセラー (再販業者) による積極果敢な価格設定; 納税引当金または租税債務の変動; 再販売チャンネル用の過剰在庫; 在庫水準または生産能力を管理できないこと; 収益や採算性に影響を及ぼす周期的変化; 買収によって見込まれるメリットの全てを実現できないこと; データ破壊やサーバー攻撃などの情報技術システムの不具合; コスト競争力を保ちながら、顧客のニーズに応えられるような新製品の開発や既存製品の向上を図ることができないこと; 国際的な製造施設、製造パートナーおよび一定の主要サプライヤーへの依存度; 業務の混乱; アフターマーケットにおけるサプライ・ビジネスを巡る競争激化; 知的所有権を取得・保護し、権利侵害・契約違反および/または非競争的行為の申し立てに対抗できる能力の欠如; 効果を欠く内部統制; 顧客の需要と紛争に関係のない鉱物資源に関わる新たな規制; 製品の料金または自社の権利を守るために要する訴訟費用; 印刷管理サービス契約の不履行; 重要な人材を引き付け、社に引き止めてモチベーションを高めることができないこと; テロ行為; 戦争行為またはその他の政治紛争; 製品開発・製造を支援するための投資の増加; 財政上の失敗、あるいは、重要な顧客またはリセラーとの取引の逸失; 自社の顧客、チャンネル・パートナーおよび投資ポートフォリオに関連したクレジット・リスク; レックスマークが当事者となり得る訴訟または規制の動きの結果; 新法の制定に起因して発生する不測のコストの影響; 業務を展開している国・地域における政治状況または経済状況の変化; 退出・参入の重要ポイントおよび流通センターにおける混乱; および、証券取引委員会 (SEC) に届出している報告書の中で指摘されているその他のリスク。レックスマークには、将来の見通しに関する記述を更新しなければならない義務はありません。

本リリースに関する投資家からの問い合わせ先:

John Morgan
859-232-5568
jmorgan@Lexmark.com

本リリースに関するメディア関係者からの問い合わせ先:

Jerry Grasso
859-232-3546
jgrasso@Lexmark.com